

「読むこと」領域テーマ

教材 - 自分 - 他者がひびき合う中で、言葉にこだわる能動的な読みができる児童生徒の具体化

第5学年 国語科学習指導案

日 時	令和7年 9月 2日
児 童	北見市立立中央小学校 5年2組 22名
指 導 者	佐野 亜希子

1 単元名

『物語の全体像をとらえ、考えたことを伝え合おう』（教材「たずねびと」光村図書5年）

2 児童の実態

本学級の児童は、自由な発想をもち、素直に自分の考えを表現することができる児童が多い。文学的文章に関して、既習教材「銀色の裏地」では、印象に残ったことを表現に着目しながらまとめるという言語活動を通して、「人物の心情が表れている表現に着目し、人物どうしの関係をとらえる力」を身に付けてきた。

一方、語彙力が十分でなく、短い単語で表現する児童も多い。読書への意欲にも差があり、アンケートを取ったところ、「読書が好き9人」「まあまあ好き5人」「あんまり好きではない7人」という結果だった。「読むとハラハラ・ドキドキしておもしろい」という児童が一定数いる一方、「好きではない児童については「文が短い絵本ならいい」「長いと疲れるし飽きてしまう」といった理由が多く、文章を読む体力があまり身に付いていない。

3 研究主題に迫るために（ひびき合いを充実させるため、獲得した言葉の力を実感させるための手立て）

（1）「教材とのひびき合い」を生み出すための単元構想

【身に付けたい言葉の力（単元目標）】

○綾の行動や心情描写、川などの情景描写、繰り返し出てくる言葉、一人称視点などの表現の工夫に気付くことができる。 【知識及び技能】（1）ク

◎「綾」の心情の変化に影響を与えた人物や場所を考えたり、川などの情景描写、「名前」や「顔」といった繰り返し出てくる言葉などによる表現の効果を考えたりして、内容面と表現面から物語の全体像を具体的に想像することができる。 【思考力、判断力、表現力等】C(1)エ

○進んで物語の世界を味わったり全体像を具体的に想像したりして、考えたことを伝え合おうとしている。

【学びに向かう力、人間性等】

【教材分析（教材観）】

本教材は、広島県出身の作者、朽木祥さんが書き下ろした物語である。戦争を題材にした既習教材「ちいちゃんのかげおくり」「ひとつの花」とは異なり、中心人物の楠木綾は現代に生きる11歳の女の子である。ポスターで見つけた「楠木アヤ」という名前をきっかけに広島を訪れ、戦争や原爆の歴史を知り、当時の人々に思いを馳せる作品である。本教材は、一人称視点で描かれており、綾の考えていることや感じている

ことが直接的に表現されている。そのため、児童は綾の心情に寄り添いながら、物語の出来事を追体験的に読むことができる。

また、表現では、「ー（ダッシュ）」が多く用いられていて、綾の心情に余韻をもたせている。「名前」「顔」「わたしたち」「川」といった繰り返し出てくる表現からは、綾の戦争に対する捉え方の変化を読むことができる。

このように、「内容」と「表現」から一人一人が思いや考えを導き出し、物語の全体像を豊かに想像することができる教材である。

【言語意識を明確にした言語活動】『たずねびと』から受け取った自分の思いを作者に伝えよう

本単元では、「言葉にこだわる能動的な読み」を、叙述を根拠に自分の思いや考えを確かめながら読み進めることと捉える。そのために、教材『たずねびと』の繰り返し表現や心情描写などの「言葉」にこだわって読み進め、物語を読む中で心に残った表現や、そこから受け取った思いを、最終的な言語活動である作者への手紙に生かすことで、児童の能動的な読みを具体化する。

- **目的**：物語を読んで心に残った表現や、自分が物語から受け取った思いなどの考えたことを伝えるため
- **相手**：作者朽木祥さん
- **場面状況**：手書きの便箋1枚程度で、出版社を通じて作者に送ることを想定する
- **方法**：内容面（物語から受け取った思いなど）と表現面（心に残った言葉など）の両方を意識して書く
- **評価**：作品の内容や表現について自分なりに考え、それを手紙の中での的確に表現しているか

また、学習のゴールを常に意識させるため、毎時間の授業の終末に、手紙の「メモ」を書く時間を設ける。短い文章でも、ゴールに向かう小さな活動を繰り返すことで、長い文章を読むことに慣れていない児童も、無理なく物語全体を読み通す力を育てていきたい。そして、これまでの手紙を書く経験（お礼の手紙、紹介の手紙など）を生かし、物語を読み深める喜びを実感させ、その学びを次の読書へとつなげていきたい。

(2)「自分とのひびき合い」を充実させるために

・導入では、今まで物語に触れたときの体験を想起させることで、物語の内容だけでなく、いろいろな感想があることに気付かせ、様々な視点で味わいたいという意欲をもたせる。

・初発の感想から生まれた児童の話し合いたいこと、疑問をもとに「読みの課題」を設定する。一覧にして児童と共有し、単元計画を児童と立てることで、課題解決への意欲を持たせ、読むことへの主体性と学びの見通しをもたせる。

・児童に、作者である朽木祥さんが、小学校5年生のためにこの作品を書き下ろしたという背景、および出版社を通じて直接手紙を送る機会が設けられているという事実を語ることで、児童の言語活動への意欲を高める。

・綾の心情をより感じられるように、「綾と一緒に旅をしよう」と、本文を読み進めながら、広島地図や当時の写真、映像などを提示し、場面に応じてタブレット等で検索する活動を行う。知識や語彙を補完するとともに、「自分が綾ならどう思うか」という視点を大切に読み進め、原爆や戦争について新たな思いや考えをもたせたり、これまでの思いや考えを深めたりする。

・単元の終末では、「物語文」を読むことよさやこの単元で行った読みの視点について振り返り、本文の叙述から想像する楽しさや、表現の効果といった様々な視点で感想を話し合う楽しさを実感させることで、日常の読書習慣へとつなげていく。

(3)「他者とのひびき合い」を充実させるために

- ・学習過程において、児童が物語を「自分ごと」として捉え、共感を深めるための重要な手立てとして発問を吟味する。どの叙述を根拠にしたのかは、一人一人違って来る。また、児童自身の経験や読書経験によっても大きな違いがある。そういった考え方の相違点や共通点を共有することが楽しい、意味があると感じることを大切にしていく。
- ・学級で設定した読みの課題や学びのマウンテン、友達の考えや感想をいつでも確認できるように、掲示したりロイロノートに共有したりしておく。
- ・自分にとって必要な学びは何か、自分が深めたいことや相手、時間などを考え選択できるようにしていく。

(4)「確かな言葉の力」の定着と活用(確かな学びの実感と活用場面の想起)

- ・毎時間、作者に伝えたい思いを書く時間を設ける。そうすることで、初発の感想から自身の読みが深まっていくことを実感させる。
- ・広島に関する書籍や資料などを展示して手に取れる環境を作っておくことで、児童が「たずねびと」をきっかけに新たに読んでみたいという意欲をもたせたり読書の幅を広げたりする。
- ・ワークシートに「読む視点」を載せておくことで、どんなことに着目すればよいかを常に意識させる。
- ・単元の振り返りでは、物語を読む視点が増えることで、自分の読書が豊かになることを実感させ、日常の読書生活へとつなげていく。

5 単元指導計画と評価計画

次	時	学習過程	学習内容	◆評価規準 ★評価方法
一	1	課題設定	今まで読んできた物語の感想を話し合う。本単元では、内容だけでなく表現についても読み深めることで、より物語の魅力を味わう=全体像(作品の世界)をとらえることを知る。 題名「たずねびと」から内容を予想する。 単元のゴール 『「たずねびと」から受け取った思いを朽木祥さんに手紙にして伝えよう』 初発の感想をもとに、「読みの課題」を設定し、単元の学習計画を立てる。	◆本文を読み、みんなで語りたいことや問いを生み出そうとしている。 ◆単元のゴールを理解し、単元全体を見通している。 ★観察、発言、ノート(ロイロノート)
二	2	構造と内容の把握	物語の内容を把握するために、綾の追体験をしながら読み、綾の前に現れたものや人物、綾の心情を整理する。 分からない言葉や資料検索、動画視聴等をして、個々の疑問を解決する。	◆叙述や資料を基に、物語の設定や人物像、綾に影響を与えたものなどを捉えることができる。 ★観察、発言、ワークシート、ノート
	3	精査・解釈	1～4場面について、綾の前に現れたものや人(「楠木アヤ」「名前」「ポスター」「夢」「兄」「母」など)から、綾が受けた影響や心情の変化について考える。 作者への手紙を書くために、心に残ったことなどをメモする。	◆叙述を根拠にしながら、綾が広島へ行くまでの心情の変化を捉えて自分の考えをもつことができる。 ★観察、発言、ワークシート、メモ

	4	<p>考えの形成</p> <p>5～7場面について、綾の前に現れたものや人（「原爆ドーム」「平和記念資料館の展示・説明板」「追悼平和祈念館のモニター顔」「原爆供養塔のおばあさん」など）から、綾が受けた影響や心情の変化について考える。 作者への手紙を書くために、心に残ったことなどをメモする。</p>	<p>◆叙述を根拠にしなが、綾の広島での心情の変化を捉えて自分の考えを明確にすることができる。 ★観察、発言、ワークシート、メモ</p>
	5 本時	<p>8場面について、他の場面とのつながりを意識しながら繰り返し出てくる表現に着目し、綾の戦争に対する捉え方の変化について考える。 作者への手紙を書くために、心に残ったことなどをメモする。</p>	<p>◆物語全体の叙述を根拠にしなが、綾の戦争に対する捉え方の変化に気付、自分の考えを明確にすることができる。 ★観察、発言、ワークシート、メモ</p>
	6	<p>「たずねびと」という題名、一人称視点、物語の設定などから、作者からのメッセージについて考える。 作者への手紙を書くために、自分が作者から受け取った思いをメモにまとめる。</p>	<p>◆今までの学習を振り返りなが、作者の意図や思いについて話し合、自分が作者から受け取った思いをまとめることができる。 ★観察、発言、ノート、メモ</p>
三	7 形成・共有	<p>前時までにまとめてきたメモを振り返り、自分の思いがどのように変化したかを実感する。 作者への手紙を書き、友達と共有する。 単元の振り返りを行う。</p>	<p>◆初発の感想から考えが広がり、深まったことを実感し、作者への手紙にしてまとめることができる。 ★観察、手紙、ロイロアンケート</p>

6 本時の学習

(1) 目標

繰り返し出てくる表現に着目して読むことで、綾の原爆や戦争に対する捉え方の変化に気づき、作者に伝えたい自分の思いを明確にすることができる。(思考力、判断力、表現力等)

(2) 展開

過程	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動 ●予想される児童の反応 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の働きかけ ○発問 	本時における研究内容 ◆評価規準 ★評価方法
であう	<ul style="list-style-type: none"> ・(八)の挿絵を見て、綾の表情を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの学習を提示し、本時の学習に目を向けさせる。 ○(八)挿絵の綾はどんな表情でしょうか？ ・綾の心情が書かれている文に目を向けさせる。 	【自分とのひびき合い】 ・綾が今までの場面とは変わっているという共通の土台に立たせる。
くり返し出てきた表現には、どんな意味があるのだろうか。			
かかわる	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し出てくる表現に着目しながら音読する。 ・繰り返し出てくる表現を1つ取り上げ、その変化と綾の見方について考える。 ・綾がどのように変化したのか、新たな思いを持ったのか自分が深めたい表現を選んで考える。 ●「名前」「顔」「人々」「空や川の情景」「楠木アヤ」「兄」など ・考えたことを全体で交流する。 ・自分と綾を比べ、自分の今の思いを話し合う。 ●私も、初めは綾と同じで知識でしか知らなかった。でも、読んできて私も綾のように忘れないでいたいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○物語の最初と最後で、綾は自分をどんな言葉で表しているでしょうか？ ○なぜ綾は「わたし」から「わたしたち」へと変化したのだと思いますか？ ・(八)だけでなく、前場面から繰り返し出てきた表現に着目させることで、変化に気付かせる。 ・考える相手、時間について児童と決める。 ・机間指導の中で、児童の気づきを促す問いを投げかける。 ○「たずねびと」を読む前と読んだ後で、自分の戦争や原爆に対する捉え方は変わりましたか？ 	【自分とのひびき合い】 ・自分が特に深めたい叙述について選択できるようにする。 【他者とのひびき合い】 ・深めたい叙述を可視化することで、意図をもって交流の相手探しができるようにする。 【他者とのひびき合い】 ・互いの考えを聞くことで、考え方の相違点や共通点を共有することが楽しい、意味があると感じるようにする。
みつめる	<ul style="list-style-type: none"> ・朽木さんに手紙を書くための自分の思いをメモする。 ・メモを提出した児童から共有・発表する。 ・次時の学習(作者の意図や思いについて深める)に見通しをもつ。 	○今日の学習を通して、作者に伝えたいことは何ですか？	【自分とのひびき合い】 ◆繰り返し出てくる表現の効果(表現面)と、それに伴う綾の心情や戦争への捉え方の変化(内容面)を結びつけて、自分の考えをメモに記述している。 ★発言・メモ